

地方の現場で  
学ぶこと鹿児島県総務部  
市町村課

柿本 克俊

平成25年入省

## PROFILE

Kakimoto Katsutoshi

平成25年10月 総務省採用  
大臣官房秘書課  
併任 自治大学校

平成26年 4月 自治税務局企画課

平成27年 4月 現 職

とある  
一週間

## 月曜日

桜島の雄大な姿に感動しながら出勤し、市町村の財政状況資料集を係員総出でチェックします。

## 火曜日

明日から始まる各市町村の地方債ヒアリングの資料の読み込みや、総務省からの調査とりまとめを行います。

## 水曜日

地方債ヒアリングの始まりです。各市町村の財政担当者から説明を受け、疑問点を確認し、内容を詰めていきます。

## 木曜日

来週からは公営企業のヒアリングです。総括として係内の業務が円滑に進むよう各市町村の状況を把握し、資料を調製します。

## 金曜日

県内市町村の財務書類の作成状況に関して上司に説明し、県民向けHPの公表をします。今日は仕事を早めに切り上げ、同僚とだいやめ（晩酌）です。

## 市町村の最善を見据えながら

国の施策は地方の実態に即したものでしょうか？  
霞ヶ関という場所から本当に地方の実情が見えているのでしょうか？  
学生時代、そんな思いを抱いて就職活動をしていた私は、その疑問に真摯に向き合ってくださいる職員と職場に出会いました。それが総務省です。  
私は現在、南国情緒溢れ、離島も多い薩摩の地・鹿児島県で働いています。  
所属する市町村課は「市町村行財政の総合窓口」として、国と市町村を繋ぐ役割を担っています。そして、私が座る財務係は、市町村の決算統計や地方債に関する手続き、公営企業の経営などの調査・ヒアリングを行っています。自分の勉強不足を恥じ、悪戦苦闘する日々ですが、目の前に広がる情報を取捨選択し、市町村の状況を勘案しながら、常に最善の形を周囲と議論しています。  
私は今、霞ヶ関からでは見えにくい現場の実情を身近に感じ、国の政策がどう実践されているかを目の当たりにするチャンスを頂いています。

## それぞれの「ふるさと」のために

総務省に入省して、自分の生まれた土地だけが「ふるさと」ではないと強く感じるようになりました。自治税務局や鹿児島県庁にて、上司や地方自治体の方々と一緒に仕事をする中で、人それぞれのふるさと（貢献したい・支援したい・誇りたい地域）が全国にはたくさんあると感じたからです。  
総務省は人それぞれの地方（ふるさと）のために、地方自治体を持つ魅力や課題を、様々な視点から見つめ、共感し、その根本を突き詰めていくことで、これからの地方を、日本を支えていくことができる場だと思います。自治税務局では、法律を改正する作業に携わることができましたが、その業務はまさに地方が持つ問題の根本を考え、最善を模索し実践する総務省の姿だと思います。また、地方勤務を経ることで多くの仲間に出会い、現場主義の感覚を培うことができるのも総務省の魅力です。地方への熱い思いを持った職員が皆さんをお待ちしています。是非話を聞きに来てください。



## Private Time

鹿児島県には、息をのむほど美しい自然や個性的な伝統文化を持つ有人島が28あり、現在その全てを巡るべく奮闘中です。旅行等で行ったどの島も思い出深いですが、先日、週に2度しか定期船が通らないトカラ列島に行き、その列島の有人7島を巡るマラソン大会に同僚と参加してきました。日々鹿児島の素材に魅了されています。